

平成31年（令和元年）度事業報告書

I 教誨師研修会関係

1 第54回教誨師中央研修会（JKA競輪補助事業）

- (1) 実施日 令和元年9月3日（火）～5日（木）
- (2) 場 所 東京都千代田区 法務省地下大会議室
- (3) 参加者 教誨師 73名 矯正施設関係者 1名 その他関係者 34名
計 108名

(4) 目 的

教誨師として委嘱されてからおおむね5年未満の教誨師で、中央研修会に出席経験のない教誨師を対象として、矯正行政の施策や方向性並びに矯正施設の収容動向等について理解を深め、「教誨師として何をすべきか」というテーマで必要とされる基本的情報・知識・技術等の向上を図る。

(5) 講 演

法務省矯正局長 名 執 雅 子 氏

「矯正行政の現状と課題～教誨師に期待すること～」

フレイ法律事務所 弁護士 梶 木 壽 氏

「教誨師に期待すること」

川越少年刑務所所属教誨師 嵩 海 史

「教誨師とは」

市原学園所属教誨師 油 谷 弘 幸

「教誨師とは」

(6) 班別討議 「教誨師に願われていること」

(7) 成 果

本研修会は、教誨師として委嘱されてから5年未満の者、教誨師中央研修会に参加経験のない新任教誨師を対象として実施した。

矯正局長による基調講演では、矯正行政の現状や課題について分かりやすく話をしていただき、教誨師がどのように関わられるのかを学ぶとともにじっくりと考える有意義な機会となった。

講義では、「教誨とは」という講義題で、実際に教誨活動を行って学んだことや、経験したことなどを題材とした内容の講義が行われた。

記念講演では、外部の人たちが教誨師に対して期待していることや取

組むべき事柄などについて話をしていただいた。加えて「教誨師に出会って人生を見直し、澄んだ、平穏な心を取り戻すことができる。宗教の力、信仰の力が人間の根本に大きな影響を与える。」と語っていただき、大変参考になった。

班別討議では、「教誨師として願われていること」、をテーマとして、自由に討議を行った。教誨活動を通して悩んだこと、難しさを感じたこと等にどう対処すれば良いのかなどを討議・発表をすることで、課題や悩みを共有し、これまでの教誨活動を振り返り、今後の教誨の在り方を考える貴重な時間とすることができた。

2 第55回札幌矯正管区教誨師研修大会（JKA補助事業）

- (1) 実施日 令和元年6月6日(木)～7日(金)
- (2) 場 所 岩見沢市 北海道グリーンランドホテルサンプラザ
3階「太陽の間」
- (3) 参加者 教誨師 77名 矯正施設関係者 43名 その他関係者 7名
計 127名
- (4) 目 的
被収容者が真摯に自己の問題性と向き合い、今後の人生が安らげるものとなるような教誨活動の在り方を考察する。
- (5) 主 題 「安らぎの心を求めて」
副 題 「心に燈（ともしび）をともしす為に」
- (6) 記念講演
北星学園大学社会福祉学部教授 田 辺 等 氏
「精神科臨床とスピリチュリティ」～心の癒しと心の成長～
- (7) 研究発表
旭川刑務所教誨師会 阿 部 眞 猛
「生きるという積極性について～祈り・願いと実行～」
帯広刑務所・帯広少年院教誨師会 織 田 秀 道
「心の平安～いま、ここの坐禅～」
月形学園教誨師会 橘 宝 召
「春の雪、そして、心を聴く」
- (8) 成 果
教誨師して必要な幅広い知識の蓄積及び技術の向上を図るための研修大会において、各施設教誨師会が若年者をはじめとする所属教誨師

に対し、研修への積極的な参加を促したこともあり、年々、参加者が増加し、本年度は、当管区教誨師連盟に所属する教誨師の半数を超える出席率であったことから、教誨師一人ひとりが自己研鑽に努める姿勢の変化が認められ、これも研修大会の成果の一つある。また、様々な特性を抱える被収容者に対し、心に訴えかける教育や指導が求められる中、参加者全員が宗教教誨の役割や今後の活動について再確認し、共通の理解を得ることができたことが最大の成果である。

3 第61回仙台矯正管区教誨師研修青森大会（JKA補助事業）

- (1) 実施日 令和元年 10月3日(木)～4日(金)
- (2) 場 所 青森市 ホテル青森
- (3) 参加者 教誨師 78名 矯正施設関係者 29名 その他関係者 17名
計 124名
- (4) 目 的
仙台矯正管区管内の教誨師が一堂に会し、矯正施設における被収容者の宗教による教化方策について研修・討議する。
- (5) 主 題 「安らぎの心を求めて」
副 題 「自分を見つめなおす宗教教誨」
- (6) 記念講演
「罪の友」主イエス・キリスト教会牧師 進 藤 龍 也 氏
「元極道牧師の体当たり更生支援」
- (7) 研究討議
「被収容者の自分を見つめなおす宗教教誨」
発表者 宮城県教誨師会所属 大 内 颯 龍
「あわてないあわてない。ひとやすみひとやすみ。」
発表者 秋田県教誨師会所属 寺 本 憲 昭
「共に生きる」
発表者 山形県教誨師会所属 深 瀬 俊 路
「『仏仏祖祖皆本は凡夫なり。』を手掛かりに『つながり』を築く、気づきの教誨」
発表者 岩手県教誨師会所属 一 條 善 人
「収穫感謝祭をとおして」
- (8) 成 果
研修会終了後に実施したアンケートの結果から、全体を通して満足である旨の感想を記した者が8割を超えた。「基調講演で、進藤牧師による

被收容者の立場に立った正直な話が聞けたことが有意義であった。」「研究討議の発表を聞いて、他宗派の取り組みや教導の違いを知ることができた。」といった意見から、本大会の成果が認められた。研修で得た新たな知見や課題について自己研鑽を積み、個々の教誨活動に反映されることが本研修の最終目的であり、今回の成果を踏まえ引き続き、より一層の教誨活動の充実に努めたい。

4 第62回東京矯正管区教誨師研修東京大会（JK A補助事業）

- (1) 実施日 令和元年 6月5日（水）～6日（木）
- (2) 場 所 東京都港区 明治記念館
- (3) 参加者 教誨師 231名 矯正施設関係者 66名 その他関係者 72名
計 369名

(4) 目 的

昨今の社会情勢と同様に、矯正の現場もめまぐるしく変化している。

本研修大会では、矯正の現状を様々な視点から見つめ、情報を共有しながら、教誨師に求められることを検討することで、教誨活動に必要な幅広い知識や技能を習得し、教誨活動の向上を図ることを目的とする。

(5) 主 題 「安らぎの心を求めて」

副 題 「教誨師に求められること」

(6) 講演

講 師 東京矯正管区長 島 孝 一 氏

演 題 「矯正の現状」

講 師 社会犯罪学者 北 芝 健 氏

演 題 「犯罪心理学とプロファイリング」

(7) パネルディスカッション

テーマ 「教誨師に求められること」

司 会 東京拘置所教誨師 若 狭 一 廣

パネラー 多摩少年院教誨師 佐 藤 秀 仁

愛光女子学園教誨師 喜代多 證 顕

府中刑務所教育専門官 谷 澤 正 次 氏

(8) 成 果

本大会においては、昨今の社会情勢と矯正の現状を踏まえた上で、教誨師に求められることを参加者全員で追及・検討するために、統一テーマ「教誨師に求められること」のもとパネルディスカッションとグループディスカッションを組み合わせ、教誨師と矯正施設職員が一体となって討論することを試みた。

特に、グループディスカッションについては十分に討議ができるよう時間配分を調整し、そのグループ編成に当たっては、教誨師の教宗派の偏り及び施設職員の所属施設や役職に偏りが出ないように、細心の注意を払って準備した結果、アンケートにおいては、その結果に満足を表明する意見が多数得られた。

参加者相互の交流が深まり、教誨師相互及び教誨師と矯正施設職員がこれからの教誨と教誨師に求められることを共に考え、互いの想いを分かち合えたという手応えを得られた研修会であった。

5 第63回名古屋矯正管区教誨師研修大会（JKA補助事業）

- (1) 実施日 令和元年 6月11日（火）～12日（水）
- (2) 場 所 岐阜市 岐阜グランドホテル
- (3) 参加者 教誨師 87名 矯正施設関係者 57名 その他関係者 16名
計 160名
- (4) 目 的
私たち教誨師が原点に立ち返り、被収容者と同じ目線で接し、信頼関係を構築する中で、心の通い合う教誨を模索し、被収容者が自らの罪を自覚し、他を思いやる心を啓発できるよう実効と希望ある教誨に努める。
- (5) 主 題 「安らぎの心を求めて」
副 題 「自らの尊さに目覚めて明日への糧にしよう」
- (6) 基調講演
講 師 前名古屋矯正管区教誨師連盟会長 石 川 宣
演 題 「教誨の現況」
- (7) 講 義
講 師 東京拘置所篤志面接委員（女流落語家） 古今亭菊千代 氏
演 題 「堀の中の嘶家 奮闘中」
- (8) 班別討議
発表者 富山刑務所所属教誨師 原 嘉 伸
三重刑務所所属教誨師 川 島 一 郎
豊橋刑務支所所属教誨師 宮 部 淳 賢
瀬戸少年院所属教誨師 堂 宮 淳 賢
助言者 名古屋矯正管区教誨師連盟会長 楠 原 純 孝
同補佐 岐阜刑務所教育統括 松 井 祥 一
座 長 岐阜県教誨師会理事 田 尻 和 光
- (9) 成 果

第63回名古屋矯正管区教誨師研修大会は、岐阜県岐阜市において、

大会のメインテーマを「安らぎの心を求めて」、サブテーマを「自らの尊さに目覚めて明日への糧にしよう」として開催された。

基調講演では、前名古屋矯正管区教誨師連盟会長で現参与である石川宣氏により、「教誨の現況」と題して、教誨師の現状と課題について、これまでの経験をもとに講演が行われた。教誨師として長年活動されている石川氏の講演は、教誨活動を行う上での考え方や課題が的確に示されており、教誨師としての姿勢を再確認する有意義な機会となった。

その後の意見発表会では、各施設所属教誨師による様々な演題に基づいた発表がなされ、その発表を受けた研修参加教誨師との質疑応答によって、活発な意見交換が行われた。教誨師各々が、日々の教誨活動で感じている悩みや率直な意見を発表することで、自身のこれまでの教誨活動を振り返り、今後の教誨の在り方を考えることができた。

記念講演では、女流落語家で東京拘置所篤志面接委員としても活動されている古今亭菊千代氏により、「塀の中の嘶家 奮闘中」と題して、日々の篤志面接活動について豊富な経験談を披露された。同じ矯正施設で活動する教誨師にとって共感できる内容が多く、今後の教誨活動について非常に参考となり、貴重な時間となった。

6 第 67 回大阪矯正管区教誨師研修大会

(1) 実施日 令和元年 11 月 22 日 (金)

(2) 場 所 和歌山市 ホテルグランヴィア和歌山

(3) 参加者 教誨師 103 名 矯正施設関係者 69 名 その他 8 名
計 180 名

(4) 目 的

教誨活動の研鑽と充実を目指して

(5) 主 題 「安らぎの心を求めて」

副 題 「“気づき”を生む教誨」

(6) 講演

高野山大学准教授 和歌山県臨床心理士会長 上野和久氏
「生きる力を求めて～こころとからだの会話～」

株式会社信濃路 代表取締役 西平都紀子氏
「和敬喜心を胸に」

(7) 成 果

上野講師の「生きる力を求めて～こころとからだの会話～」と題した講話では、言葉以外でのコミュニケーションの在り方について、また、過去に体験されたトラウマが心と身体に与える影響等について、臨床心

理学的な知見や脳科学的な知見から解説があり、深い記憶の傷となるような心の傷を持った被収容者と対峙する上で必要な知識や心構えを学ぶことができた。

西平講師による「和敬喜心を胸に」と題した講話では、病気で両親を失ったつらさを乗り越えて人の命を救える仕事に就きたいと話す少女の体験発表の様子や、西平講師自身の幼少期から代表取締役に就任するまでの苦悩に満ちた人生について紹介され、つらい境遇に遭ってもひたむきな気持ちを大切にして前向きに生きることの素晴らしさを実感するとともに、絶望的な時にこそ支えとなってくれる人々との出会いが生きる糧となるということを改めて認識することとなった。

両名の講話はどちらも「関わり」「つながり」がキーワードになっており、拝聴したことで、人は一人では生きていけない、人は人によって癒され生かされているのだという、当たり前ではあるが教誨活動の心にも通じる認識を新たにすることとなった。また、それぞれの今後の教誨活動がより一層の“安らぎの心”や“気づき”を与えられるような場となるために、各自が研鑽を積むための第一歩となった。

7 第28回広島矯正管区教誨師研修会（JK A補助事業）

- (1) 実施日 令和元年6月27日（木）
- (2) 場 所 浜田市 浜田ワシントンホテルプラザ
- (3) 参加者 教誨師54名 矯正施設関係者42名 その他関係者5名
計101名

(4) 目 的

被収容者の心に寄り添い、今、成すべきことを共に見つめながら、明日へと歩いていける心を養う教誨活動に資することを目的とする。

- (5) 主 題 「安らぎの心を求めて」
副 題 「心の居場所を与える教誨」

(6) 基調講演

島根あさひ社機復帰促進センター

SSJ(株)社会復帰支援部心理職

福田 恵子 氏

高田 勉 氏

「葛藤の語りによる変容」

～回復共同体（TC）の取り組みを通じて～

(7) 講 演

社会福祉法人いわみ福社会理事長

室崎 富恵 氏

「地域共生社会の実現にむけて」～我が事・丸ごとの地域づくり～

(8) 成 果

本研修会において、広島矯正管区教誨師連盟に所属する教誨師及び広島矯正管区管内の矯正施設関係者が一堂に会し、「安らぎの心を求めて」という研修会の主題の下に、「心の居場所を与える教誨」という副題を掲げ、被収容者自身の更生に向けた過程において、宗教教誨の存在が、彼らの心の居場所となるための在り方について学んだ。

基調講演では、島根あさひ社会復帰促進センターにおいて民間職員として勤務し、各種教育プログラムに携わっておられる福永恵子氏及び高田勉氏により、「葛藤の語りによる変容」と題し、全国でも例のない回復共同体（TC）プログラムの実施状況とその意義について紹介され、中でも、同プログラムを受講する被収容者が、その受講過程において、同衆の前で自身の作文を発表したことによって、その後の本人の心情の変化、また、周囲の対応の変化等、実例を用いて心情の変容を考察された講演は非常に興味深く、アンケート調査でも非常に有意義であった旨の回答が多かった。

記念講演では、講師に社会福祉法人いわみ福祉会理事長室崎富恵氏を迎え、「地域共生社会の実現にむけて」と題し、福祉の視点から、知的障害者が罪を犯すにいたる生活環境や背景について、実例を交えながら講演され、コミュニティーが崩壊した現代社会においては、地域社会の支えなくして障害者の行き場はなく、彼らとの共生には、誰もが「我が事」として目を向けることが肝要であり、このことは、矯正施設からの出所者に対しても同様であり、彼らの社会復帰を支えるためには、犯罪に関与しない、繰り返さない環境づくりを、地域全体で取り組むべきであると強く訴えられた。

以上のとおり、他の分野で活動されている方の知見を学ぶことにより、教誨師はもちろん、参加した矯正施設職員も、今後の被収容者との向き合い方や、更生に向けた取組みについて考えを深めることができた。

教誨を通じて、被収容者一人一人に生きることを感じさせるとともに、彼らに「居場所」を与える取組みに対して、教誨活動が果たすべき役割を再認識する有意義な研修会であった。

8 第44回高松矯正管区教誨師研修会（JK A補助事業）

(1) 実施日 令和元年 7月2日（火）～3日（水）

(2) 場 所 高松市 サポートホール高松

(3) 参加者 教誨師 40名 矯正施設関係者 31名 その他 14名

計 85名

(4) 目 的

所属教誨師の宗教教誨に関する研究協議の促進を図り更に相互の親睦を図ることを目的とする。

(5) 主 題 「安らぎの心を求めて」

副 題 「ともに歩む」

(6) 講 演

香川大学法学部教授 平野美紀氏
「多様な人たちを受容できる社会を目指して」

(7) 研究発表会

「教誨を通して学んだこと」

発表者 徳島刑務所教誨師 千葉真仁

「教誨活動を通じて」

発表者 高知刑務所教誨師 福江 等

「私の教誨活動」

発表者 丸亀少女の家教誨師 漆間法隆

(8) パネルディスカッション

テーマ 「それぞれの活動を通して見えてきたもの」

パネリスト 松山 滋氏 (子ども食堂主催者)

亀井 匡氏 (香川少年友の会理事)

大川裕子氏 (高松市社会福祉協議会地域福祉課長補佐)

久保博巳 教誨師 (真宗大谷派深妙寺住職)

上野忠昭 教誨師 (浄土宗浄願寺住職)

コーディネーター

三船晃裕氏 (高松刑務所分類教育部長)

(9) 成 果

大会テーマである「安らぎの心を求めてーともに歩むー」に基づき、高松矯正管区教誨師連盟に所属する教誨師が一堂に会し、宗教教誨に関する研究協議の促進を図り、更に相互の親睦を図ることを目的として研修を実施した。

(1) 研究発表

徳島県教誨師会、高知県教誨師会及び香川県教誨師会のそれぞれから推薦した教誨師(発表者)がこれまで行ってきた教誨の実施方法、教誨実施上の悩や不安などを発表することで、経験豊富な教誨師は新たな取組方法に気付くことができ、比較的経験が浅い教誨師は今後の自身の教誨の実施に向けての具体的なアドバイスを受けることができた。

(2) 基調講演

講師として、香川大学法学部教授平野美紀氏を迎え、「多様な人たちを受容できる社会を目指して」と題し、これまでの御自身の経験や研究をもとに、①日本人の中に存在する思い込みや同調圧力について、②再犯防止に向けた政策について、③多機関多職種連携について等、海外での例などを参考にし、「今後の刑務所処遇の在り方」や「再犯防止や社会復帰支援のための多職種連携の必要性」について御講演いただいた。

(3) パネルディスカッション

「それぞれの活動を通じて見えてきたもの」と題して、子ども食堂主催者、香川少年友の会理事、高松市社会福祉協議会課長補佐、高松刑務所教誨師及び高松刑務所教科指導講師の5人のパネリストが、それぞれの活動とそこから感じたことを発表し、それに対する質疑応答が行われた。まさに、前日の基調講演の内容を予想したかのように、福祉・矯正・教育・宗教の多職種連携を意識した内容であった。

9 第43回福岡矯正管区教誨師研修沖縄大会

- (1) 実施日 令和元年11月6日(水)～7日(木)
- (2) 場所 那覇市 パシフィックホテル沖縄
- (3) 参加者 教誨師79名 矯正施設関係者66名 計145名
- (4) 目的

矯正施設の被収容者に対する宗教教誨の重要性に鑑み、福岡矯正管区内各施設の教誨師が会して、施設における宗教教誨事業を拡充強化し、時代に対応する教誨の諸問題や被収容者矯正の方策について研究討議する。

- (5) 主 題 「安らぎの心を求めて」
副 題 「希望を信じて共に歩む教誨」
- (6) 講演
神戸女子大学文学部教授 知名定寛氏
「琉球の宗教史 ～御嶽信仰と仏教史～」

(7) 成果

大会副テーマ「希望を信じて共に歩む教誨」に焦点を絞って研修できたところに意義が認められた。分科会の発題者の一人が、被収容者に寄り添うためには教誨師自身のことばで心・気持ちを伝えることが大切だ、と語っていた。参加者全員の目標と課題を明確にしてくれた。

10 第2回国内自主研修会in富山

- (1) 実施日 令和元年10月24日(木)～25日(金)

(2) 場 所 富山市 富山刑務所ほか

(3) 参 加 者 教誨師 8 名 事務局 3 名

(4) 目 的

歴史ある富山刑務所の状況を知り、教誨活動に幅と奥行きを深めるようにしたい。

(5) 成 果

歴史ある富山刑務所の状況及び富山刑務所で木彫指導を行っている井波彫刻家の工房を訪ね、井波彫刻の神髄を知り、教誨活動に幅と奥行きを深めることができた。

II 連絡調整関係

1 宗団代表者との連絡協議会（京都部会）

(1) 日 時 令和元年10月9日(水)午後2時～午後3時20分

(2) 場 所 京都市 西本願寺伝道本部2階研修室1～4

(3) 出席者 総 数 37名

2 宗団代表者との連絡協議会（東京部会）

(1) 日 時 令和元年7月24日(水) 午後2時00分～午後4時30分

(2) 場 所 東京都杉並区 立正佼成会 法輪閣第4会議室

(3) 出席者 総 数 20名

3 第7回法務省矯正局との意見交換会

(1) 日 時 令和元年12月12日(木) 午後4時00分～午後6時00分

(2) 場 所 東京都千代田区 法務省矯正局14階会議室

(3) 出席者 総 数 18名

III 顕彰関係

1 生存者叙勲（春：6名 秋：7名）

2 藍綬褒章（春：5名 秋：3名）

3 総裁表彰（26名）

4 法務大臣感謝状（25名）

5 日本宗教連盟理事長感謝状（12名）

6 理事長感謝状（8名）

IV 物故者（12名）

V 各種刊行物等の発行

1 教誨師連盟だより 57号

令和元年7月1日発行

- | | | | | |
|---|-------------------|-----|-----------|----|
| 2 | 教誨あれこれ | 5号 | 令和元年7月 | 発行 |
| 3 | 全国教誨師会員名簿（令和元年度版） | | 令和元年8月30日 | 発行 |
| 4 | 教誨師連盟だより | 58号 | 令和元年12月1日 | 発行 |
| 5 | 「教誨」 | 54号 | 令和2年3月30日 | 発行 |

事業報告に関する附属明細書はありません。